

徳島大学 国際センターニュース

International Center News, Tokushima University

No.28
2017.12

報 告

日本語研修コース

2017年度前期日本語研修コース修了式を8月18日に行いました。中国とモンゴルの受講学生計5名が修了スピーチを披露し、修了証書を受け取りました。5名は4月から8月まで、毎日3時間以上の日本語授業に加え、自主学習をこなし、そして専門の勉強を両立させました。受講学生からは「大変だったが一番面白いコースでした」「日本語が大好きになりました」といった感想が出ました。



2017年度後期日本語研修コース開講式



2017年度前期日本語研修コース修了式

10月13日には、2017年度後期日本語研修コースの開講式を行いました。現在、ナイジェリア・中国・モンゴル・マレーシア・マラウイ・カナダからの留学生10名が初級コースを、ベトナムからの留学生3名が上級コースを受講しています。

全学日本語コース

全学日本語コースは、留学生が専門の勉強をしながら日本語学習ができる、週2回のコースです。受講生は学期初めのレベル分けテストにより、初級から上級までの8レベルのうち自分の日本語レベルに合ったコースに分かれます。2017年度後期には常三島キャンパス・蔵本キャンパス合わせて計64名の外国人留学生が全学日本語コースに登録し、日本語学習に取り組んでいます。

外国人留学生の日本文化研修旅行



6月24日、外国人留学生36名が日本文化研修旅行に参加しました。姫路城を訪れたほか、アサヒ飲料明石工場を見学し、世界遺産と現代的な工場を見て、様々な日本を感じました。

国際センターサマースクール「徳島であおう」2017

2017年8月6日から13日の8日間、徳島大学国際センターサマースクール「徳島であおう」2017を開催し、ベトナム・韓国・モンゴル・インドネシア・アメリカ・中国から計34名が参加しました。台風の影響により初日の行事がすべてキャンセルになるなどハプニングもありましたが、2日目以降は好天に恵まれ、企業訪問や日本文化体験、日本人学生との交流、徳島・京都見学を楽しみました。

サマースクール参加者集合写真



新入留学生ガイダンス

今秋に徳島大学に入学した外国人留学生を対象に、新入留学生ガイダンスを常三島キャンパス(10月20日)及び蔵本キャンパス(10月27日)で実施しました。計61名の新入留学生が参加し、在留資格や交通ルール、防災など、日本で生活するために必要なことについて理解を深めました。ガイダンス終了後には、徳島地域留学生交流推進協議会の関係機関からご寄付いただいた食料品や日用品等を希望者に配付しました。特に暖かい国から来た留学生にとっては、毛布や防寒具はありがたい支援となったようです。

ガイダンスの様子



多文化体験交流会



多文化体験交流会

11月2日、徳島大学工業会館にて、多文化体験交流会を開催しました。多文化体験交流会は、国際センターと徳島地域留学生交流推進協議会が主催するもので、徳島地域の外国人留学生や日本人学生、地域の方々が交流を深めるために毎年行われています。交流会では、留学生によるダンスや歌が披露されました。日本からは阿波踊りが披露され、留学生も一緒に楽しみました。10月初旬に来日した留学生が多く、今回の交流会は新しい友だちを作る良い機会にもなったようです。本交流会には日本人学生と地域の方々 25人を含む約120人の参加者がいました。留学生、日本人双方にとって、お互いの理解を深める場となるとともに、多文化の豊かさを感じさせる交流会となりました。

外国人留学生在籍者数

徳島大学は第3期中期目標として、世界からの優秀な外国人留学生を受け入れることで、キャンパスのグローバル化を推進し、グローバル人材の育成を目指しています。平成29年度には、240人以上の外国人留学生を受け入れることを目標に定めています。

国際センターは、渡日前入学許可制度やサマースクールの実施

人	外国人留学生在籍者数
平成	
26年度	218名
27年度	208名
28年度	211名
29年度(年度途中)	235名

により、学部留学生の増加に努めるとともに、宿舎の整備・奨学金制度の拡充を図り、各部局と連携しながら外国人留学生の受け入れ体制の整備を進めています。
(各年度5月1日時点)

日本人学生海外派遣者数

徳島大学のグローバル化に関する第3期中期目標では、世界で活躍できるグローバルリーダーを養成するとともに、グローバルな視点を持った地域活性化を担う人材を育成することを掲げています。目標達成のための取り組みの一つとして、学生への海外留学支援が挙げられます。

国際センターでは、短期海外研修プログラムや留学情報イベントの実施、「トビタテ！」

留学JAPAN 全国代表プログラムへの申請支援、日々の留学相談対応などを通じて、学生の海外への挑戦をサポートしています。

人	日本人学生の海外派遣者数
平成	
26年度	166名
27年度	176名
28年度	147名
29年度	半期(4月～9月) 100名*

*前年度比1.32倍

徳島大学の海外協定校

大学間協定

南イリノイ大学
(アメリカ)
トリニティウェスタン大学
(カナダ)
パラナ連邦工科大学
(ブラジル)

部局間協定

[薬学部・大学院薬科学教育部]
ブリティッシュコロンビア大学
(カナダ)
[総合科学部]
韓国外国语大学
(韓国)

徳島大学のグローバル化への取り組みの一環として、海外協定校の新規開拓に取り組んでいます。

徳島大学が学術協定を結ぶ海外協定校は、2017年度前期(4月～9月)に新たに5校が加わり、計83校(うち大学間協定38校、部局間協定45校)となりました。(2017年10月1日時点)

渡日前入学許可制度

2015年度、国際センター・国際課が中心となり、ベトナムのドンズー日本語学校と協定を結び、学部への入学を目的とする渡日前入学許可制度を設けました。本制度により、ドンズー日本語学校からの推薦を受けた留学生は、書類審査・面接などを経て入学が許可され、入学試験のための来日が不要となります。2016年9月にはドンズー日本語学校からの第1期生2名が来日し、半年間の予備教育を終え、2017年4月から学部生となりました。また、2017年10月にはドンズー日本語学校からの第2期生3名が国際センターでの日本語等予備教育を開始し、2018年4月の学部入学を目指して勉強に励んでいます。

渡日前入学許可制度1期生

理工学部1年 フアン バン ガト

私は2016年9月26日に徳島大学へきました。最初の6か月間日本語や日本に関する色々なことを勉強して今年4月に学部に入りました。最初は困難なことがたくさんありました。まず、すべてのことを日本語で言わないといけないことです。ベトナムで日本語を勉強していたときは、日本語をあまり話さないでずっと勉強するだけだったので、日本に来たら日本語で「自分のことを伝えること」が問題となりました。

自分の言いたいことが上手く伝わらず、一度は自信を失いました。しかし、留学生が抱えるこの問題を解決しなければ前へ進めません。困難に直面した日本での生活も、国際センターの先生方のおかげでだんだん慣れてきました。特に授業で先生は笑いとユーモアで学生に理解させようしてくれました。また、日本へ来る前は日本人は真面目で、厳しい人たちだと思っていたが、実際は全く逆で、とても熱心で、心が温かい人たちでした。それは私を驚かせたことの一つです。

6ヶ月の予備教育期間が終わり、学部に入って、外国人だけではなく日本人の友達ができる、生活にも慣れてきました。大学の「勉強はすべて自分で」というやり方はちょっと大変ですが、行動力を持ってより一層頑張っていきます。日本社会にとけ込めるよう、目標にしっかりした計画を立ててしっかりと実行しようと思います。これからもよろしくお願いします。



本人中央

Global Space Josanjima / Kuramoto

海外留学を目指す学生、そして徳島大学で学ぶ外国人留学生のためのスペースとして、書籍等による情報提供、各種相談の場として開放しています。

常三島キャンパス
地域創生・国際交流会館4階
月～金 9:00-17:00

蔵本キャンパス
蔵本会館2階
月～金 9:00-17:00

官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～



「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」は、2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度です。2020年までの7年間で約1万人の高校生、大学生を「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の派遣留学生として送り出しています。目標のもと、派遣留学生自らが計画した多様な留学を支援しています。徳島大学からは第1期から第7期までに23名の学生が採択されました。

2017年12月現在は第8期申請者が選考に臨んでいます。第9期の募集締切は2018年2月13日です。

第5期生

工学部3年 中山 裕基

私は2017年2月から約半年間、インドにて世界三代伝統医学のアーユルヴェーダを学んできました。アーユルヴェーダは「生命の哲学」と言われており、「より良い生き方とは何なのか」が説かれています。アーユルヴェーダを学びながら、インドでの生活で気づいた私ならではの、より良い生き方を皆さんにお伝えします。

インドの国民性を表す言葉としてKal(කළ)があります。Kalはヒンディー語であり、「明日」と「昨日」の二つの意味を持っています。インド人は未来、過去だろうと気にしないスタンスのようです。(動詞の語尾変形で未来、過去を区別します。)

このKalという言葉は、本当にインドの国民性を象徴する言葉で、彼らは未来でもなく、過去でもない「今」を生きています。

「今」を生きるために、お金を稼ぎ

「今」を楽しむために、踊り、歌う。

インド人の生き方・思想は、私の世界観を大きく変えました。私は、「将来こうなりたいから、これをしなくては」とか「何であんな事をしてしまったのだろうか」といったように、「今」を生きず「未来・過去」にとても固執していた生き方をしていました。しかし、彼らの生き方を肌で感じることで、自分の物事に対する見方が楽観的になり、「今」の積み重ねにより、未来は構成できるのだという考えを持つことができました。

留学一つをとっても、思想や言語など得られるものは人によって大きく違うと思います。

留学を少しでもしてみたいと思った方は、ぜひ国際センターを訪ねてみてください。私も、皆さんの留学への挑戦を応援しています。



本人前列右端

第7期生

工学部3年 萩野 紘

私は「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム第7期生」として、2017年8月から約2ヶ月ニューヨークの政府機関であるNew York City Department of Parks and Recreation のサステナビリティチームでインターンとして活動しました。インターンシップ先での主なミッションはニューヨークを持続可能な都市にするため、企業や民間団体、さらに世界の都市と協力して知識を共有しあうことや、ニューヨーク市内により多くのグリーンインフラを設置することでした。そのためコペンハーゲンとの持続可能性に関する会議への参加から市内の都市計画関連会社と協力したグリーンインフラの設置、さらにはコロンビア大学と協力して緑の屋根の設計を行うなど、現地での業務は多岐にわたりました。その中で一貫してインターン生に求められたのは「自ら課題を発見して解決し、チームと協力しながらニューヨークが掲げるミッションを達成するために努力する」という極めて能動的で積極的な姿勢でした。そのような環境の中で海外学生や上司とチームを組み連携して仕事をするという体験は、日本では決して体験できないかけがえのないものだったと感じています。



本人右端

今トビタテ留学や海外留学を考えている人に伝えたいのは、海外には日本では決して出会えない人や機会、体験があるということ、そしてその先にいる自分の可能性は未知数であるということです。新しい自分に出会いたい、大学生活の中で大きな挑戦をしたいと考えている方は、是非世界で自分の可能性を試してみて下さい。

第8期申請者向け説明会を実施

2017年7月18日(火)12時～、トビタテ！留学JAPAN第8期申請者向け説明会を行いました。第9期申請者向け説明会は12月と2018年1月を予定しています。



海外留学相談対応

国際センター・国際課では、常三島・蔵本両キャンパスのGlobal Spaceで、日本人学生の海外留学相談に随時対応しています。2017年4月から10月末までに51名の学生の相談に対応しました。相談内容は、短期海外研修、交換留学、留学計画、海外留学奨学金、外国語学習、ビザ・渡航手続きなど、多岐にわたります。

相談に来る時点で、明確なプランはなくても構いません。海外留学を考えている方は、気軽にGlobal Spaceへ、相談に来てみてください。

Global Space (国際課国際交流係)
ryugakuk@tokushima-u.ac.jp

国際センター ホームページ

海外留学情報、国際交流
イベント情報などをいち
早くお知らせします。

徳島大学国際センター 検索



徳島大学国際センター 2017年度夏休み短期海外研修

2017年8月から9月にかけて、徳島大学の計25名の日本人学生が海外協定校であるモナシュ大学（オーストラリア）、南イリノイ大学（アメリカ）、トリニティウェスタン大学（カナダ）へ1か月の短期留学をしました。

モナシュ大学MUEL C（オーストラリア）

生物資源産業学部2年 中原 祥希

短期留学を振り返って、経験したこと、感じたことがたくさんあります。自分自身、生まれて20年間ずっと日本に住んでおり、世界のことは本やテレビなどで得る情報しかありませんでした。そんな私にとって、メルボルンという人生初めての異国の地は、嬉しいとしか言いようがありませんでした。日本で当たり前の箸文化ではなくナイフとフォークを使う文化、食文化の違い、交通機関の違い、多人種、英語主流の言語の違いなど、見るもの全てが印象的でした。その中でも、多くの国の人たちとコミュニケーションがとれたことが印象に残っています。特にクラスメイトの中国の方、サウジアラビアの方など多くの人と話せて楽しかったです。しかし、英語を話すことに慣れていないため、意思疎通がうまくいかず苦しかったこともあります。悔しくて、悲しく、無力さを感じました。日本の生活では、日常的に英語を話すことができるわけではないので、今後は英語を能動的に学んでいきたいです。



本人前列右端

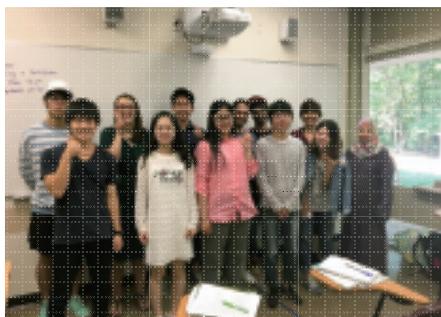
海外に行き海外の文化を経験したことは良いのですが、自文化である日本文化を海外の方、例えばホストファミリー、学校の先生、生徒などにたくさん伝えることができなかつたことが残念でした。

今の私には、大きな目標はありません。でも、一緒に留学した仲間はもう一度海外へ行きたい、英語をもっと話せるようになりたいなど新たな目標を持っています。私はまず、小さな目標をもちたいと思っています。大学で過ごせる時間は限られているので、毎日の目標を決め、その目標を決めていく上で多くのことを知り、自ら学んでいきたいです。その中で大きな目標を決めていきたいです。

南イリノイ大学CESL（アメリカ）

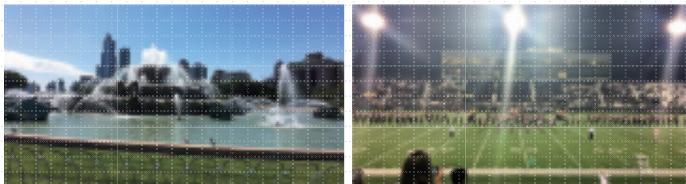
総合科学部2年 大西 凪人

私は語学力向上を目的に今回の留学に臨みました。特に、リスニング力・スピーキング力を伸ばすことが最大の目的でした。結果から言えば多少は達成できたと思いますが、まだまだ勉強不足であることを痛感しました。学習面で特に印象的だったのは、英語でコミュニケーションをとることは思っていた以上の何倍も難しい、ということでした。現地の人とはもちろん英語で会話するのですが、自分の言いたいことをうまく英語で言えず会話が途切れることが何度もありました。今思えば文法の間違いなど気にせず自分の思いをもっと伝えるべきだったと、少し後悔しています。学習面以外で楽しいことはたくさんありました。大学内で行われたスイカ祭りや皆既日食観察・シカゴ観光やアメリカンフットボールの観戦など、たくさんの思い出ができました。また、日本以外の国の人友人ができ一緒にフットサルをしたことも良い思い出です。苦しいことも楽しいこともたくさんあり、とても充実した留学でした。



本人後列左から3番目

最後に、今回の留学は多くの人のサポートがあったからできたものだと思います。資金面では両親に援助してもらい、準備時や渡米後には国際センター・国際課の方々にお世話になり、現地の大学の方にも何度も助けていただきました。今回の留学に関わってくださった多くの方々、ありがとうございました。



2017年度春休み短期海外研修

2017年10月10日から12日にかけて、蔵本キャンパス及び常三島キャンパスにて、春休み短期海外研修説明会を行いました。昨年の春休み研修参加者4名と夏休み研修参加者1名の体験発表もあり、3日間で計47名が参加しました。

2017年度の春休みには、12名がニュージーランドのオークランド大学へ、6名がカナダ（トリニティウェスタン大学・トrento大学・クイーンズ大学）へ、1名がアメリカ（オレゴン大学）へ留学予定です。

2018年度短期海外研修については、4月と10月に説明会を開催する予定です。



短期海外研修プログラム

短期海外研修プログラムの詳細・参加手続き・海外留学奨学金申請に関する質問等は

**地域創生・国際交流会館4階
Global Space Josanjima
(国際課国際交流係)まで
ryugakuk@tokushima-u.ac.jp**